

令和2年度 連携型中高一貫教育 実施報告

<飛騨地区> 神岡中学校 山之村中学校 飛騨神岡高等学校

1 連携型中高一貫教育の目標とその達成に向けた具体的な取組

(1) 連携型中高一貫教育の目標

「ともに育てよう元気な神岡の子」をめざし、

- ① 確かな学力を身に付けた子
- ② 自分に自信をもち、夢や目標に向かって挑戦する子
- ③ 地域に愛着と誇りをもち、地域に貢献できる子 を育てる。

(2) 連携型中高一貫教育の令和2年度の重点

- ・ 中高教員の授業交流活動の充実による確かな学力の育成
- ・ 中高全職員による中高一貫教育の意義やねらいの共通理解と指導計画の見直し
- ・ 中高と地域をつなぐ情報発信の充実

2 目標達成に向けた具体的な取組における成果と課題

目標	取組	成果と課題
確かな学力を身に付けるために	学習習慣の確立	<p>○ Step by Step の訪問面談を通して、中学3年生の数学・英語の取組状況を確認し、生徒の学習意欲の喚起につなげることができた。また、生徒が面談記録を作成することで、中学校教員が指導内容を把握することができた。</p> <p>▲ Step by Step の内容や面談方法等、中高一貫教育の事業を再検証し、よりよい中高一貫教育の実現を目指していきたい。</p>
	生徒同士の交流	<p>○ 先輩と語る会は、高校1・3年生との懇談を実施し、高校生活の始まりと卒業後の進路状況を知り、中学生が進路を考える上で非常に効果的だった。</p>
	中高教員の交流	<p>○ TTによる授業交流では、多様な視点で生徒の理解度を確認することができ、個に応じた指導により、高校への学びにつなぐ効果が見られた。</p> <p>▲ 今後の教科部会において、より一層、学習内容の定着を図るための指導法を検討したい。また、授業でのICT機器の活用について、授業参観・意見交換できる機会を設け、主体的・対話的な学びにつながる活用方法を探りたい。</p>
目標・夢に向かって挑戦するために	出前授業	<p>○ コロナ禍で十分な取組はできなかったが、数少ない出前授業の一つ一つがより専門的な学びを知るうえで貴重な体験となった。</p>
	体験学習の充実	<p>○ 社会人講話では、地元企業の方を講師として招いた。地元にある企業の理解だけでなく、仕事内容や資格、地域で生きることの意味を学び、キャリアデザインに直結する学びができた。</p> <p>○ 地域人材を活用することで、地域ぐるみで生徒を育てる意識の向上につながった。</p> <p>▲ 中止になる取組が多くあったので、テレビ会議などの方法を用いた交流活動を検討したい。</p>
	部活動体験	<p>・ 感染予防のため、部活動交流会の実施を見合わせた。</p>




【Step by Step の訪問面談】



【TTによる授業交流】



【社会人講話】

地域に貢献する態度の育成のために	地域での合同活動	<p>○ふるさと挨拶運動では、例年のハイタッチ挨拶に代えて、肘タッチ挨拶を考え、生徒が主体的に取り組む活動となった。</p> <p>○歩道に立って挨拶してくださる地域の方もあり、地域に根付いた活動になりつつある。</p> <p>○進んで地域に貢献しようとする生徒が増え、MSリーダーズ、MSJリーダーズへの参加希望者の増加につながっている。</p> <p>▲交通安全運動では、放課後の時間帯ということもあり、地域の方の参加が少なかった。活動方法を改善したい。</p>	 <p>【ふるさと挨拶運動】</p>
	地域との交流の推進	<p>○コロナ禍のため、広く参加を促すことはできなかったが、学校だより等で行事の紹介を行った。</p>	